

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	112人	算数	112人	理科	112人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	137人	算数	137人	理科	137人
------	----	------	----	------	----	------

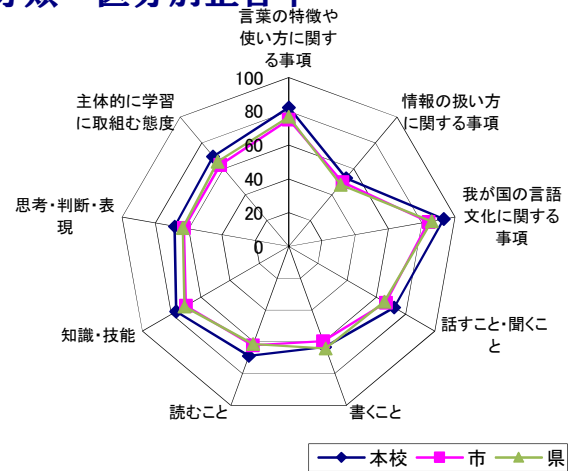
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	82.3	75.1	76.7
	情報の扱いに関する事項	52.9	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	93.3	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	72.1	66.5	65.5
	書くこと	63.2	59.6	64.2
観点	読むこと	68.9	62.2	61.5
	知識・技能	76.8	70.2	71.1
	思考・判断・表現	68.5	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	69.6	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

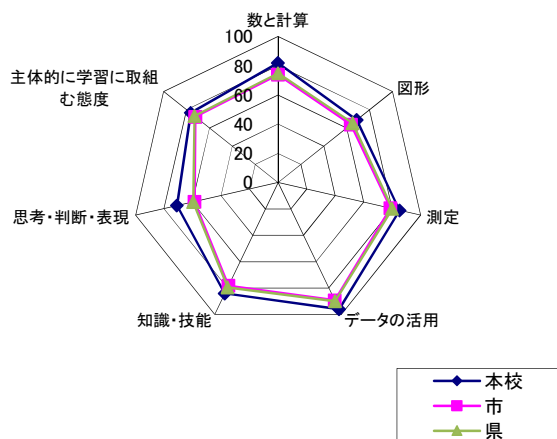
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○主語と述語の関係、ローマ字の読みの問題については、県の正答率を5ポイント上回っている。言葉に関する基礎的な内容を理解し、語彙を豊かにしていると考えられる。</p> <p>●漢字を書く問題のうち「お湯」の正答率は61.5%であり県平均を0.7ポイントを下回った。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、これまでの学習を継続し定着を図る。漢字練習だけでなく文章の中で使えるような課題を工夫し、語彙力の向上にもつなげていく。</p> <p>・ローマ字については、ワークシートやAIDリルなどを活用し、繰り返して学習することで確実な定着を図る。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均を5.1ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文章を見付け要約することができている。説明文の読み取りにおいて、指示語や接続語に着目した成果と考える。</p> <p>●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は、県の正答率を2.5ポイント上回ったが、50%以下であり課題が見られる。</p>	<p>・大事な言葉に注目して、情報と情報の関係や、段落と段落の関係を読み取る力をつける。その上で、いくつかの大きなまとまりにくくり、文章全体の構成を捉える力を高める。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均を7.4ポイント上回っている。</p> <p>○漢字のへん、つくりに関する正答率は93.3%であり、基礎的な学習内容の定着が見られる。新出漢字の学習の際、読み方、筆順、例文と合わせてへんやつくりなど漢字の構成を確認することが、定着につながっていると考える。</p>	<p>・今後もこれまでの学習活動を継続していくとともに、漢字辞典を積極的に活用し、漢字の組み立てと意味について理解を深める。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均を6.6ポイント上回っている。</p> <p>○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す問題は、県の平均を大きく上回り、話し合いの内容を聞き取り、自分の考えと理由を伝えることができていく。</p> <p>○共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題は、やや課題が見られる。</p>	<p>・国語の授業だけでなく、他教科での話し合い活動や学級活動等の機会も活用し、話す・聞くことについての学びを深めていく。</p> <p>・話し合い活動の際に、互いの意見の共通点や相違点に着目するなど、ポイントを整理して情報を獲得する力を身に付ける。</p>
書くこと	<p>平均正答率は県の平均を1.0ポイント下回っている。</p> <p>○選択肢からよと思う方を選び、自分の考えを明確にして文章を書くことがよくできている。また、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができていく。</p> <p>●指定された文章の長さで書くことや、段落の役割を理解し、指定された段落構成で書くことに課題が見られる。</p>	<p>・作文指導では、構成を意識しながら書き進められるような指導を行っていく。文章の書き方の例を示して習得させ、応用力をつけていく。</p> <p>・日記指導や作文指導の際、条件を提示して書く活動を取り入れる。2段落構成や「始め・中・終わり」という組み立てや、文字数を意識して取り組み、徐々に書くことへの抵抗を減らす指導を行う。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均を7.4ポイント上回っている。</p> <p>○説明文については、叙述をもとに段落や文章の内容を捉えることができていく。また、物語文については、登場人物の気持ちを捉え、文章を読んで感じたことを共有する力が身に付いている。</p> <p>●物語の内容を読み取る問題において、場面の様子について捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・説明文の学習では、今後も順序を表す言葉、指示語の内容、中心文や中心語句などを的確に読み取る学習を積み重ねていく。</p> <p>・物語の内容を読み取る学習では、中心人物の性格、各場面の出来事、気持ちの変化などの観点を示し、観点に沿って読み取る指導を行う。また、各場面の出来事に関連付け、中心人物の気持ちの変化を捉える力を付ける。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.9	73.8	74.8
	図形	68.7	63.7	65.3
	測定	85.2	78.9	80.1
	データの活用	96.1	89.3	90.0
観点	知識・技能	84.2	78.3	79.5
	思考・判断・表現	70.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	76.5	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

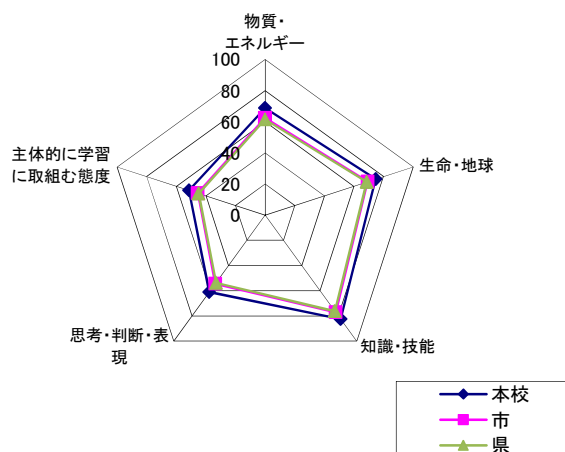
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均を7.1ポイント上回っている。</p> <p>○特に、乗法の計算の仕方を説明する問題や、問題場面と図や式を結び付けて考える問題がよくできている。計算の仕方を話し合ったり、問題場面と図や式を関連付けて説明したりする学習を推進している成果であると考えられる。</p> <p>●2桁の整数から小数を引く計算に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、計算の仕方を考えさせたり、問題場面と図や式を関連付けて説明したりする学習を、低学年のうちから大切にしていく。</p> <p>・整数と小数が混ざった計算については、位を揃えたり繰り下がりに注意させたりし、正確に計算できるよう指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>○特に、円の直径を示す直線を答える問題は正答率が県の平均を7.5ポイント上回っており、基本的な知識がよく定着している。</p> <p>●二等辺三角形と円の性質を結び付けて説明する問題は、正答率が14.6%と低くなっている。基本的な知識を生かして説明することに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、基本的な知識を十分に定着できるように指導するとともに、身に付けた知識を活用する学習を積極的に取り入れていく。その際、考え方を話し合ったり、ノートに書いたりするなど、他者に向けて説明する活動を行うことで、考えの根拠や妥当性に注目させ、学んだ知識をより確実なものにさせていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、県の平均を5.1ポイント上回っている。</p> <p>○特に、図から道のりを計算して求めたり、重さの単位が適切なものを選択する問題がよくできている。</p> <p>●場面を説明する文章を読み、適切な時間の長さを答える問題は、県の平均を下回った。</p>	<p>・今後も、時間や長さ、重さを自分ではかったり、図に表したりする活動を通して、実感を伴って理解できるようにしていきたい。また、普段の学校生活でも意識させ、実生活に生かそうとする態度も育みたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均を6.1ポイント上回っている。</p> <p>○グラフの1目盛りが何個を表しているかを答えたり、グラフから分かることを正確に読み取ったりすることがよくできている。</p>	<p>・今後も、1目盛りが表す値を考えたり、グラフから分かることを話し合ったりノートに書いたりする学習を行っていく。また、自分たちでデータを集め、グラフに表して考察したり、複数のグラフを比べて分かることを話し合ったりする活動を積極的に取り入れることで、本領域の見方・考え方をさらに高められるようにしたい。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.8	62.5	61.5
	生命・地球	74.6	69.2	68.6
観点	知識・技能	82.5	77.2	76.3
	思考・判断・表現	61.0	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	51.5	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県の平均を7.3ポイント上回っている。</p> <p>○物の重さは置き方や形で変化しないことを答える問題は、県の平均正答率を11.4ポイント上回り、正答率も99.0%と学習内容の定着が見られる。</p> <p>●種類の異なる物質を同じ重さにしたとき、体積がどうなるかを資料から考える問題は、県の正答率を上回っているものの正答率25.2%と低く、十分理解できていない。</p>	<p>・生活の中で経験したことのある問題は正答率が高い傾向にあるため、実際に体験する機会を多く設ける。</p> <p>・実験結果が理由と結びついて定着していないので、実験結果から分かったことを説明したり、根拠をもとに文章化したりする機会を増やしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県の平均を6ポイント上回っている。</p> <p>○「植物の育ち方」に関する設問の正答率は90%を上回っており、学習内容の定着が見られる。</p> <p>○「太陽と地面のようす」の問題では、どの問題も県の平均正答率を5ポイント以上上回っており、学習内容の定着が見られる。</p> <p>●実験器具の正しい使い方に課題が見られる。また、どちらの領域も、記述式で解答する設問の正答率が低い傾向にあった。</p>	<p>・観察や実験の結果を正確に得るために、器具の正しい使い方の指導を徹底する。</p> <p>・記述の問題の正答率が低いため、実験結果や考察を自分の言葉で書く機会や友達と説明し合う機会を多く設ける。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●家庭学習に関する質問では、「家で学校の宿題をしている。」の質問に「はい。」と答えている児童の割合が91.2%おり、県の平均を大きく上回っている。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強している。」の質問や、「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」の質問では、肯定回答割合が県より大幅に下回っている。つまり、決められたルールに則った課題を忘れずにやっている児童は多いが、自主的、自発的に学んでいこうと考えている児童が少ないことが分かる。幸いに、「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある。」の質問や、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある。」の質問に対する肯定回答割合は県の平均を大きく上回っているため、学校と家庭が連携し、児童が学ぶ新しい知識に関することや疑問に思ったことなどを、進んで自ら学んでいける環境を整えていくことが大切である。

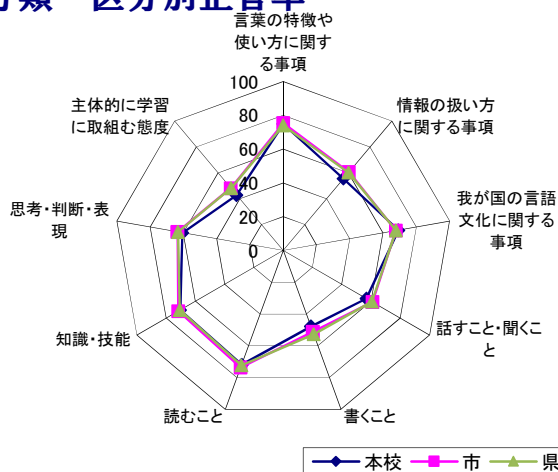
○●「グループでの話し合いに進んで参加している。」「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」の質問に対する肯定回答割合が県の平均を大きく上回っている。児童が自分の意見を発信しやすい教室環境が整えられていると考えられる。しかし、「友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の質問に「はい。」と答えている児童は県の平均より少ない。コミュニケーションに不可欠な会話のキャッチボールが成り立っていない可能性がある。6年間、各学年の発達段階に応じて、友達の話をしっかり聞き、理解することの大切さを伝え、友達の話していることに対する感想や意見を書いていく活動を続ける必要がある。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」「毎日の生活が充実していると感じている。」の質問に対する肯定回答割合が県の平均を大きく上回っている。ここ数年、新型コロナウイルスの影響で、実施できない学習活動や行事が多々ある中、児童が前向きに学習・生活していることが分かる。また、家族とのコミュニケーションに関する質問の肯定回答割合も、全て県の平均を大きく上回っている。本校の児童の家庭環境が良好で、児童の自己肯定感が高まっていることが分かる。今後も家庭と連携しながら、できるだけ児童が前向きに活動できる学習や行事を計画、実行していきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.9	75.4	74.1
	情報の扱いに関する事項	55.6	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	69.2	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	56.9	61.0	60.7
	書くこと	47.9	51.2	52.8
	読むこと	71.9	73.7	72.4
観点	知識・技能	70.4	71.7	70.6
	思考・判断・表現	60.5	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	42.9	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

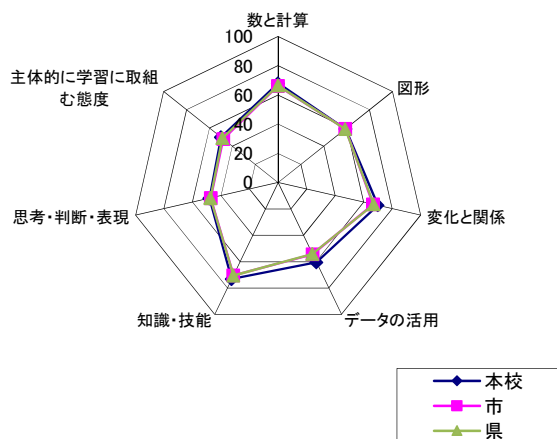
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読みは出題された問題のいずれも県の正答率より高かった。 ●連用修飾語の正答率は13.1%であり、課題が見られる。	・漢字の読み書きについては、引き続き様々な方法で繰り返し学習ができるようにする。 ・文法については、説明文や書く学習の中でも取り上げて指導し、どの言葉がどこにかかっているのかを意識させて読み取ったり文を書いたりできるようにする。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、県の平均を4.6ポイント下回っている。 ●資料の情報を理解し、文章をまとめて書くことに課題が見られる。	・説明文の読み取りや2つの文章を比べて読む学習では、根拠を明らかにした読み取りをしていく。また、読み取ったことを分かりやすくまとめる学習では、ICT機器を活用し、自分の文章を整理・推敲する活動を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○ことわざの意味を理解し、正しく使うことについての問題の正答率は69.2%であった。	・ことわざについて興味をもち、いろいろなことわざを調べたり、使ったりできるよう働きかけをする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均を3.8ポイント下回っている。 ○話し手の伝えたいことや、話し手の工夫を捉えながら聞くことはできている。 ●意見の相違点を理解し、考えをまとめることに課題が見られる。	・話し方や聞き方の指導を引き続きしていくとともに、他教科や学級活動の中で様々な話す機会を設けていく。 ・話し合い活動では、互いの意見を聞き合い、それをまとめるようなグループ活動も取り入れていく。
書くこと	平均正答率は、県の平均を4.9ポイント下回っている。 ●書く問題は、指定された長さで書くこと、二段落で書くこと、資料から分かったことを書くこと、資料をもとに自分の考えを書くこと、の4つの条件で書くよう指定されていた。どの条件の正答率も県平均より1.2～8ポイント下回っていた。	・作文指導では、文字数や段落などの条件を与えたり、短い文から練習したりするなど、書く経験を積み重ねていく。また、他教科でも表現する場面を意識的に増やしていく。
読むこと	平均正答率は、県の平均とほぼ同じであった。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率は、県平均より4.6ポイント上回っていた。 ●段落の関係を捉えたり、文章を要約する問題の正答率は、県平均より4.2ポイント下回っていた。	・読書活動を通して語彙を増やし、自分の考えを表現する際に適切に使っていくことができるような指導を行っていく。 ・説明文の学習では、段落相互の関係を捉えられるようにするために、「しかし」「このように」など段落をつなげる言葉に着目させながら読むようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.9	66.1	66.4
	図形	59.0	58.9	58.8
	変化と関係	70.0	66.6	67.0
	データの活用	60.5	54.4	54.2
観点	知識・技能	73.1	70.4	70.6
	思考・判断・表現	48.1	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	49.9	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

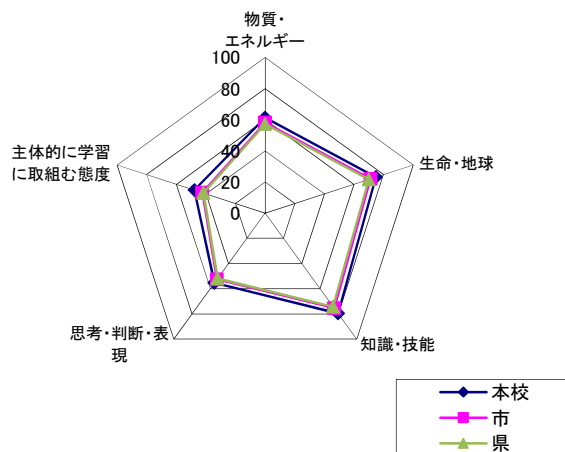
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○整数や小数のわり算の計算で正しい答えを出すことがよくできている。授業において、教科書や学習プリント、AIDリルで繰り返し問題練習を行った成果であると考えられる。</p> <p>●小数を10倍した数を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・計算の仕方や意味を考えたり、説明したりする学習活動を大切にしつつ、四則計算を含め、早く正確に計算できるよう問題演習を繰り返し行っていく。</p> <p>・小数を倍にした数を求める問題については、小数を初めて学習する3年生から位を意識した指導を大切に、位をもとにして考え、理解を図れるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○複合図形で、面積の求め方や式を表した正しい図を選ぶことがよくできている。実際に、複合図形の紙を切ったり貼ったりして操作する学習を行っている成果であると考えられる。</p> <p>●平行四辺形の作図をすることに課題が見られる。</p>	<p>・類題を解き、級友との話し合いの場を設けることで、さらなる力を付けていく。</p> <p>・それぞれの図形がもつ性質をよく確認し、その特徴をもとに作図をすることで学習の定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均を3.0ポイント上回っている。</p> <p>○この領域の問題、ほとんどが県平均を上回っている。特に、図を使って基準量を求めるための除法の立式する問題では、県の平均正答率よりも5.6ポイント上回っている。図や式を使って、級友同士で説明し合う学び合いを学校全体で推進している成果であると考えられる。</p>	<p>・高学年でつまづきやすい比例と反比例や割合において、今後も、図や表、数直線を用いて立式する活動を充実させ、理解を図れるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>○この領域の問題のほとんどが県平均を上回っている。特に、二次元表の読み方の問題の正答率は83.6%と高かった。他教科においても、グラフを読み取る活動を行っている成果だと考えられる。</p> <p>●答えを導くために必要な情報を選び、答えの導き方を説明することに課題が見られる。</p>	<p>・この領域以外においても、正しい答えを導くだけでなく、根拠をもってその導き方を説明する活動を行う。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.3	58.1	57.2
	生命・地球	74.8	71.1	70.0
観点	知識・技能	79.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	55.4	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	47.8	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県の平均を4.1ポイント上回っている。</p> <p>○「物の体積と温度」については、空気、水、金属の順に、温度による体積変化が大きいことが実験結果から判断できるなど、よく理解されていた。</p> <p>●温度によるものの体積の変わり方を利用した日用品を正しく選ぶことができた割合は42.3%で県平均より4.9ポイント低く、十分理解されていない。</p>	<p>・各単元を通して、学習内容を日常生活に結びつけながら学習を進めていくことを重視していく。</p> <p>・実験を伴う学習等では、自分で発想した予想と実験の結果を基に結論を検討していく際、自他の考えを比較し、いろいろな方向から考えることで自分の考えをより科学的な見方へと高められるよう働きかける。その際、各自の考察を記述させることで話し合いを深める手立てとする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県の平均を4.8ポイント上回っている。</p> <p>○月と星の問題では、どの問題においても県の正答率を5ポイント以上を上回っている。特に、月の動きについての問題では、県の平均を10ポイントほど上回っていることから、内容の定着が十分に図られている。</p> <p>●水を入れておいおいをしたビーカーの数日後のようすを正しく答えられた割合は65.4%で県平均より7.9ポイント低く、十分理解されていない。</p>	<p>・生命・地球など目では見えにくい事象については、ICTツールや図書資料・映像資料を多く活用し、内容についての定着につなげていく。また、基本的な実験用具の使い方は、折に触れて確認し、確実な定着を図る。</p> <p>・自然環境豊かな地域性を生かして身の回りの自然に目を向け、自然事象への興味関心を高めていく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習についての質問ではほとんどの項目で肯定回答割合が県の平均を上回っている。しかしながら、若干「家で勉強するとき、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」という質問に対する肯定回答割合が、県の平均を下回った。今後、家庭との連携を図り家庭学習の充実を図っていくと同時に、家庭学習の定着を図っていききたい。

○読書についての質問では、平日の1日あたりの読書の時間が、「2時間以上」「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合が県と比較して高くなっている。しかし、1か月に読む本の冊数については、「11冊以上」と回答した児童の割合が県の平均と比べて低い。今後は、図書室との連携を図り、家庭や児童への情報公開をしながら読書への関心・意欲を高めるための手立てを考えて実践していきたい。

○学習についての質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある。」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」という問いに対しての肯定回答割合が、県を上回っている。また、「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている。」という質問に対する肯定回答割合が非常に高い。学習の中で普段からパソコンを活用し、情報を得るノウハウが定着してきていることがわかる。このことから、学習に対して興味・関心をもち、意欲的にパソコンを学習に取り入れている様子が見られる。今後も学習意欲を持続できるように、授業展開や学習環境の設定を工夫していきたい。

○授業についての質問では、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」「クラスは発言しやすい雰囲気である。」「授業を集中して受けている。」などの問いに対する肯定回答割合が県を上回っている。このことから、児童がクラスの友達とやりとりをしながら学習することに取り組んでいることが分かる。今後も対話を取り入れた活動を授業の中に取り入れ、自分の考えを深められるようにしていきたい。

○学校生活についての質問では、「先生は学習のことについてほめてくれる。」「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」などの質問に対しての肯定回答割合が県を上回っている。学校の中に自分自身の居場所を感じ、安心感や自信をもって学習に取り組んでいる児童が多いことが分かる。

○家庭生活についての質問では、「家の人と学校のできごとについて話をしている。」「家の人と将来のことについて話すことがある。」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」「自分は家族の大切な一員だと思う。」「家の人と学習について話をしている。」などの問いに対する肯定回答割合が、県を上回っている。「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」「自分も持っている能力を十分に発せたい。」などの問いに対する肯定回答割合も多いことから、家庭での生活に充実感をもって過ごしていると同時に、自分も周りのために頑張りたいという社会貢献への思いが育っていることから、今後の学校生活のさまざまな活動において、主体性や積極性を大切にし、活躍の場をたくさん設けていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1 話す・書く力の向上 2 言語事項に関する力の向上 3 数量や図形の基礎的な事項の定着	1 ノート指導と合わせて、根拠をもとに、端的に、順序立てて端的に分かりやすく話す・書く指導 2 漢字は文章の中で使えるよう書く指導と合わせて行う。 3 繰り返し学習や家庭学習の工夫を行う。	・漢字学習、数量や図形の基礎的な事項については、ほぼ良好な結果であった。しかし、話す・書くことについては課題がある。特に「書く」については、条件に合った書き方が十分身に付いているとは言えない。また、算数や理科の記述で解答する設問の中にも正答率の低いものがあった。今後は、書くことに重点を置いて指導していく。